

一人ひとりの気づきの質を高める

生活科学習指導の在り方

～「花ややさいをそだてよう」の活動を通して～

1 設定理由

生活科は、児童の身近な生活圏を学習の対象や場とし、児童の体験や具体的な活動を通して「自立への基礎を養う」ことをねらいとしている。しかし、「学習活動が体験だけに終わっていることや、活動や体験を通して得られた気づきを質的に高める指導が十分に行われていないこと」が生活科における一つの課題として指摘されている。体験や活動をさせるだけでなく、気づきをさらに高めるための体験や活動の吟味と適切な指導が必要である。

本地区の生活科の実施状況としては、具体的な活動が実施され、一人ひとりの気づきの質が高まってきている。さらに気づきの質を高めるために数年前よりどのような手立てを講じたらよいか実践をもとに研究にとりくんできた。特に今年度は昨年度課題となった、気づきを共有する場の工夫を念頭に置き、一人ひとりの気づきの質を高める生活科学習の在り方を追求していきたいと考え、本主題を設定した。

2 研究仮説

- (1) 体験活動を重視し、教師の働きかけを工夫することにより、一人ひとりの児童の気づきの質を高めることができるであろう。
- (2) 気付いたことを表現したり、伝え合い交流したりする場を工夫することにより、一人ひとりの児童の気づきの質を高めることができるであろう。

3 研究内容

春はっけん「花ややさいをそだてよう④」、生き物はっけん「花ややさいをそだてよう⑤」(大日本図書)の授業実践を通して仮説を検証することで、一人ひとりの気づきの質を高める生活科学習指導として、有効であったか考察を行う。

4 結論

- 野菜との出会わせ方を工夫し、栽培意欲を持続させることができたことで、多くの気づきを生み出すことができた。
- 野菜日記をかいたことで、野菜の成長に気付くことができた。話し合いの場を設けたことで、違う野菜の成長と比較することができ、気づきの質を高めることができた。
- はてな・発見コーナーを設けたことで、自分の知っていることを友だちに教えたり、一緒になって考えたりするなど、伝え合いの場ができ、気づきの質が高まった。また、付箋に書いた友だちの気づきに返事を書くことで、気づきが言語化され、共有され、より確かなものになった。
- はてな・発見コーナーでより多くの児童が興味をもって取り組めるようにするため、書いたことを発表する場を設けたり、付箋を色分けしてテーマごとに貼ったりして、さらに工夫をしていきたい。

I 研究主題

一人ひとりの気づきの質を高める生活科学学習指導の在り方

II 主題設定の理由

生活科は、児童の身近な生活圏を学習の対象とし、具体的な活動や体験を通して、「自立への基礎を養う」ことをねらいとしている。しかし、「学習活動が体験だけに終わってしまっていることや、活動や体験を通して得られた気づきを質的に高める指導が十分に行われていないこと」が生活科における一つの課題として指摘されている。体験や活動をさせるだけでなく、気づきをさらに高めるための体験や活動の吟味と適切な指導が必要である。

本地区の生活科の実施状況としては、具体的な活動が実施され、一人ひとりの気づきの質が高まってきている。さらに気づきの質を高めるために数年前よりどのような手立てを講じたらよいか実践をもとに研究にとりくみ、共通理解をもって以下の4点について実践してきた。

①児童に気付かせたい具体的な気づきを指導者が明確にもつとともに、ねらいに即して気づきを価値づける教師の働きかけを工夫する。

②事象との出会いのさせ方を工夫するとともに、じっくり関わる時間を確保する。

③日常的に児童の感性を培い、表現力を高めていけるようなとりくみを継続して行う。

④児童の気づきを交流する場を大切にし、相互の気づきを共有し合い、気づきの広がりや深まりを大切にしていく。

特に今年度は昨年度課題となった、気づきを共有する場の工夫を念頭に置き、①、④の手立てを中心に、児童に気付かせたい具体的な気づきを指導者が明確に持ち、働きかけを工夫したり、児童の気づきを交流する場を大切にし、気づきを共有し合って気づきの広がりや深まりを大切にしたりすることを通して、一人ひとりの気づきの質を高める生活科学学習の在り方を追究していきたいと考え、本主題を設定した。

III 研究目標

具体的な活動や体験を通して、身近な対象や自分自身についての気づきの質を高めるための手立てを明らかにする。

IV 研究仮説

仮説1 体験活動を重視し、教員の働きかけを工夫することにより、一人ひとりの児童の気づきの質を高めることができるであろう。

仮説2 気付いたことを表現したり、伝え合い交流したりする場を工夫することにより、一人ひとりの児童の気づきの質を高めることができるであろう。

V 研究内容と方法

春はっけん「花ややさいをそだてよう④」、生き物はっけん「花ややさいをそだてよう⑤」（大日本図書）の授業実践を通して仮説を検証することで、一人ひとりの気づきの質を高める生活科学学習指導として、有効であったか考察を行う。

VI 授業実践

2 学年 春はっけん「花ややさいをそだてよう④」

生き物はっけん「花ややさいをそだてよう⑤」

(1) 単元観

本単元は、学習指導要領生活科の内容(7)「動物を飼ったり植物を育てたりして、それらの育つ場所、変化や成長の様子に関心をもち、また、それらは生命をもっていることや成長していることに気づき、生き物への親しみをもち、大切にすることができるようにする。」を受けて設定したものである。ここでは、児童が自らの手で継続的に野菜を育てることを通して、身近な野菜に興味・関心をもち、それらが生命をもっていることや成長していることに気付くとともに、植物を大切にすることを主なねらいとしている。

野菜とのかかわりの中で、成長や変化に気づき、工夫して栽培しようとする姿を大切にすること。そして育て方を調べたり教えてもらったりしながら、自ら進んで対象と関わることで、世話をすることの楽しさや喜びを感じることをこの単元である。

(2) 児童の実態(男子12名、女子12名、計24名)

本校は千葉県の北東部に位置し、海に近く温暖で、花や野菜作りが盛んな旭市にある。学区は水田や畑が広がり、自然が豊かな地区である。そのため、植物に親しみをもっている児童も多い。

本学級の児童は、活発で、好奇心旺盛である。しかし、興味をもっても、わからない・難しいと感じてしまうと、先に進もうとせず最初から諦めてしまい、考えることをやめてしまう児童もいる。また、誰とでも素直に明るく接することができるが、自分の伝えたいことをうまく言葉で表現できない児童も多い。

事前アンケートから、「野菜を育てたことがあるか」という問いに対して、育てたことがある児童は半数を超え、身近に野菜を育てられる環境があり、野菜にも親しんでいることがわかる。さらに、「野菜を育てることが楽しみか」についても、野菜を育てたことのある児童は「楽しみ」と答えている。反面、野菜を育てたことがない児童は、育てることに対して消極的であり、経験の差によって大きく違いがあることがわかった。野菜が好きではない児童も多く、給食で野菜のおかずが出ると残してしまう児童が多い現状がある。

(3) 指導観

本単元と児童の実態から、次の点に留意して指導をしていく。

第一に、児童の気づきの質を高めるために、指導者が具体的な気づきを明確にもち、教師の働きかけや言葉かけを工夫する。気づきを得るためには、まず、対象に対して主体的・意欲的に関わる必要があると考える。そのために、野菜との出会わせ方を工夫する。学区にある種苗店へ実際に行き、自分で苗を購入して育てることで、愛着をもち、大切に育てることができると思う。さらに、野菜に愛着が持てるように、観察日記には「キューちゃん日記」など、自分でつけた名前を書くようにし、野菜の成長や変化を、育てていく中で感じた気持ちも含めて記録していく。また、児童のつぶやきを引き出せるよう、「どうしてだろう。」「そうなんだ。」など、共感的な発言や、「何でかな。」など、児童の気づきを引き出し、促すような言葉かけを心がけるとともに、教師も野菜のお世話を楽しみながら、気づきを見つけていくようにしたい。

第二に、相互の気づきを共有し合い、気づきの広がりや深まりができるよう、児童の気づきを交流する場を意図的に作る。野菜を育てていく上で、困っていることや、心配なこと、気になることについて、同じ野菜どうしのグループで調べ、伝え合いをする。本で調べたり、教えてもらったりしたことを話し合っ、グループで共有する。また、「はてな・発見コーナー」を設置し、疑問に思っていることや、分かったことを付箋に書き、掲示板に貼る。そのことによって児童どうしの交流が深まり、情報を共有することで、さらに気づきの質が高まると考える。

(4) 単元のねらい

- 育てている野菜に愛着をもち、世話をしようとしている。 (関心・意欲・態度)
- 野菜の成長の様子に合わせて世話をしたり、観察したりすることができる。 (思考・表現)
- 野菜の成長の様子や、自分のかかわり方に気付くことができる。 (気付き)

(5) 気付きの質を高めるための主な手立て

A 教師の働きかけの工夫に対する手立て (研究仮説1)

- ア 育てる野菜との出会い
- イ 野菜日記 (観察カード)
- ウ 環境の整備

B 交流する活動の工夫 (研究仮説2)

- イ 野菜日記 (観察カード) (Aと共通)
- エ 情報共有の場の設定 (はてな・発見コーナー)
- オ 野菜調べ

(6) 指導計画 (15時間扱い)

	時数	学習活動	評価規準
よう 菜を決 め 育てる 野	1	栽培したい野菜を決め、収穫出来たらどうしたいかをカードにかく。	栽培活動に期待感をもって、育てるものを決めようとしている。 (関心・意欲・態度)
行こう 苗を 買いに	1	地域にある種苗店へ買い物に行く計画を立てる。	野菜を育てることに関心をもつ。 (関心・意欲・態度)
	1	苗を買いに行く。	野菜を育てることを楽しみにしている。 (関心・意欲・態度)
植えよう 苗を	2	種苗店の店員さんに苗の植え方を教えてもらい、苗を植える。	野菜を育てることを楽しみにしている。 (関心・意欲・態度)
野菜の世話をしよう		野菜の観察をしよう	
	1	観察カードをかく。	野菜の成長に気付いている。 (気付き)
	1	野菜クイズをする。	野菜によって似ているところ・違うところがあることに気付いている。 (気付き)
	2	観察カードをかく。 前と比べて変わったことは何か な。	野菜の生長の様子に気付いている。 (気付き)
	1	野菜を育てている上で困っていることを話し合う。	育てる野菜に合った世話の仕方があることに気付いている。 (気付き)
		野菜のことを家族や親戚などに聞いてくる。(課外)	自分に必要な情報を集めている。 (思考・表現)

A ア 育てる野菜との出会い

実際にお店へ行き、自分で苗を選び購入することで、栽培意欲をもたせる。

- ・地域にある種苗店に野菜の苗を買いに行く計画を立てる。

- ・自分たちで苗を買いに行く。



- ・種苗店の店員さんに苗の植え方を教えてもらい、苗を植える。

- ①赤玉土をいれる。
- ②培養土を入れる。
- ③苗を植えるところを少しくぼませる。
- ④苗の根元を2本指ではさみ、ひっくり返して持つ。
- ⑤やさしく土の上に置く。
- ⑥根に土をかぶせる。



- ・種苗店の店員さんから、それぞれの野菜の苗について説明を聞いた。初めて知ることも多く、興味を持って聞いていた。

C4 キュウリの葉っぱの毛に触ると、手がかゆくなるんだって！

C5 早く植えたい！

- ・自分でお金を支払って買った苗を大切に持ち帰る児童の様子が見られた。

- ・話を聞きながら、慣れない手つきであるが真剣に植えようとする姿が見られた。

C6 野菜は苗で植えるんだね。アサガオの時は種だったのにね。何でだろう。

C7 野菜で大きさ（背丈のこと）がちがうね。お花が咲いてるのもあるよ。

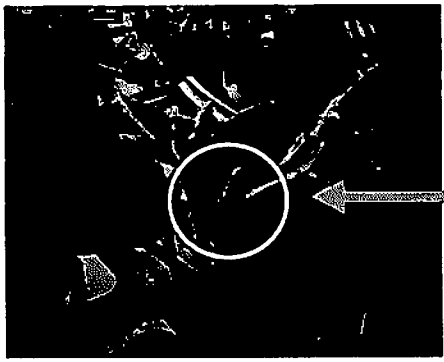
C5 水やりはどのくらいやるんですか。

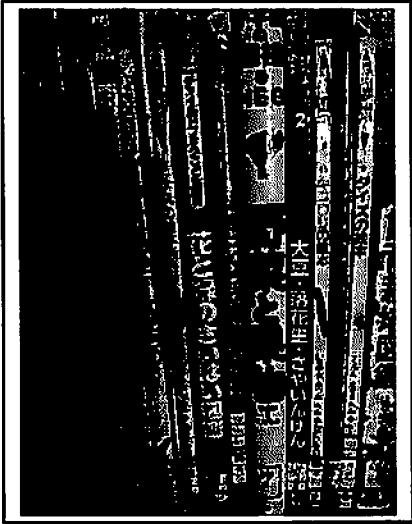
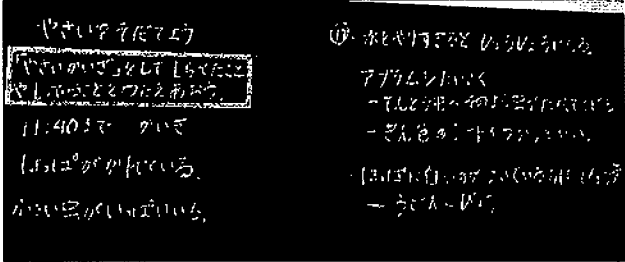
- ・すでに自分の野菜と友だちの野菜を見比べて、違いを見つけた児童がいた。

育てる野菜との出会いを工夫したことで、「自分が選んだ野菜を自分で育てる」ということを楽しみにし、栽培意欲につなげることができた。自分たちで苗を買いに行ったときには、苗を大事に受け取り、嬉しそうな児童の様子が見られた。



野菜の観察をしよう	A イ 野菜日記（観察カード） 観察の視点（大きさ、色、形、手ざわり、におい）を示す。自分の野菜を観察し、観察カードにかかせる。また、観察して気付いたことを児童同士で交流させる。 B イ 野菜日記（観察カード） 同じ野菜を育てているグループを作り、野菜日記を紹介し合うことで共通点や相違点に気付けるようにする。グループで話し合ったことを、全体で発表する場を設け、気づきを共有させる。 ・野菜の苗（主に葉・茎）を観察し、自分の野菜の苗の特徴や、感じたことを観察日記に絵や文でかく。 T そうなんだ。他の枝豆の人はどう？ ・自分で名づけた野菜の名前をタイトルにする。（例）「トマちゃん日記」 ・観察後、見つけたことを発表し合う。 	・野菜の様子や変化に気づき、観察日記にかくことができた。 ・観察後の発表で、様々な気づきが出され、共有することができた。 C8 枝豆です。葉っぱが、下の方は丸だけど、上の方はハート形でした。 C9 あっ！本当だ！ （自分の野菜を見て） ・友だちの発言を聞いて、自分の野菜にも当てはまることに気付いた。 C10 C8 ちゃんと言っていたとおり、葉っぱが違う。 ・同じ野菜どうしで、気づきを共有することができた。 ・「育っていてうれしい」「もっと大きくなってほしい」と書く児童が多かった。
前と比べて変わったことは何か	A イ 野菜日記（観察カード） 観察の視点として、前回と比較することを示す。自分の野菜を観察し、観察カードにかかせる。また、観察して気付いたことを児童同士で交流させる。 B イ 野菜日記（観察カード） 同じ野菜を育てているグループを作り、野菜日記を紹介し合うことで共通点や相違点に気付けるようにする。グループで話し合ったことを、全体で発表する場を設け、気づきを共有させる。 観察後、見つけたことを発表し合う T. へえ！みんなのはどう？ 	・「比較する」ことを念頭に置いてから観察したことによって、葉が増えたことや、背丈が伸びたこと、花が咲き、実が出来ていることなど、野菜の変化に気付けた児童が多かった。 C11 ミニトマトです。茎の分かれ目に、小さい葉っぱが生えています。 C12 ぼくはピーマンだけど、ピーマンは茎の分かれ目から実ができてる！

	 T. 大発見！野菜によって分かれ目にできるものが違うんだね。	C13 枝豆は、そこ（茎の分かれ目）から小さい枝豆ができてるよ。 C14 うわあ！本当だ！ ・友だちの気付きに対して、違う野菜でもどうか確かめている姿が見られた。 野菜に名前をつけたことで、野菜への愛着が深まった。また、観察の視点を与えたことで、教師がねらいとする気付きを得ることができた。発表する場を設定したことで、個の気付きが共有され、気付きの質が高まった。
野菜を育てていて困っていることを話し合おう	A ウ 環境の整備 児童に継続して意欲を持たせられるように、野菜に関する図書を集め、いつでも手に取れるようにする。 B オ 野菜調べ 気付きをより確かなものにするために、同じ野菜を育てている児童同士で調べ活動を行い、気付きを共有するために、発表の場を設ける。 T. 水をあげるだけではだめなのかな。 T. どうしたらいいかな。 T. みんな気になっていることがたくさんあるんだね。どうしたらいいかな。	・友だちの困っていることと自分が困っていることを比べながら聞いていた。 C15 ぼくのキュウリ、葉っぱが小さくなっちゃった。 C16 ぼくの葉っぱは小さくならないよ！ C17 でも、僕のキュウリも葉っぱがくたっとして小さくなってるよ。 C18 水をあげてないから枯れちゃったんじゃない？ C15 水はあげてたよ。 C19 虫にたべられちゃったから？ C20 虫をやっつけたらどう。 C21 もっと水をたっぷりあげればいいんじゃない。 C22 本で調べよう！ C23 うちのおばあちゃんに聞いてみるよ。 ・野菜についてわからないことを調べようという意欲につながった。 ・友だちの話を聞いて共感したり、疑問をもったりしながら、考えることができた。

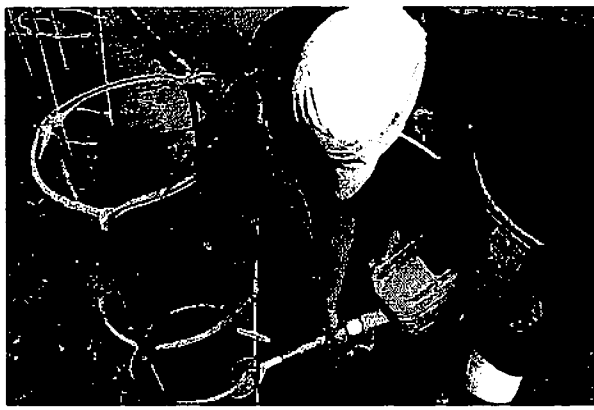
	・学校図書館と、市の図書館を併用して用意した本（約 30 冊）を利用し、調べ活動を行う。 ・調べて分かったことを、同じ野菜の友だちと伝え合う。 	・育て方についてだけでなく、その野菜の種類や、食べ方についても調べていた。 ・知らなかったことがわかり、野菜に興味を持ち、お世話にさらに意欲を見せた児童もいた。 C23 枝豆の花、咲かないなあと思ってたけど、小っちゃくて朝しか咲かないんだって！ C24 だから見つからなかったんだ～。 ・自分の疑問点を解決することができた。 野菜を調べる環境を整えたことで、児童が休み時間に進んで本を手にとっていった。しかし、自分が調べたいことが本にのっていないかったり、必要な情報を取り出せなかったりと、うまく調べられなかった児童もいた。児童が情報を見つけやすいように工夫する必要があった。
野菜調べでわかったことを伝え合おう	B エ情報共有の場の設定 気付きを共有し、野菜ごとの育て方や様子に気付かせるために、同種・異種グループでそれぞれ交流する場を設ける。 ・調べてわかったことを、 ①同じ野菜の友だちと ②違う野菜の友だちと 伝え合う。  (休み時間のこと) (葉を取っている児童を見て) T. 何で葉っぱを取ってるの？ T. どうして取った方がいいの？	・違う野菜でも共通することがあったり、初めて知ることがあったりして、活発に話し合っていた。伝え合いの後、「〇〇君は野菜博士みたい。」と友だちのことを称賛していた。 ・朝や休み時間に発見したことを担任や友だちに教える姿が多く見られた。  C25 黄色くなっちゃったのは、取った方がいいんだよ。 C25 だってそこから病気になっちゃうんだよ。本で調べたんだ。



C26 茎にイボイボがあるのは、「気根」
って言って、水が少ないサインなん
だよ。(ミニトマト)

C27 じゃあ水やりの回数を増やし
てみよう。

- ・調べたことや伝え合いの中で知ったことを、自分の野菜の世話に生かすことができ、友だちにもアドバイスをすることができた。



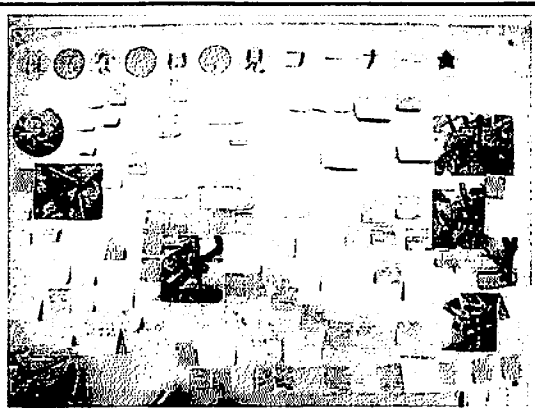
野菜調べをしたことによって、友達が育てている野菜にも興味を持ち、野菜ごとの違いを見つけていた。授業中だけでなく休み時間にも野菜の成長の様子を伝え合うなど、新たな交流が生まれた。その後のお世話にも生かされており、野菜調べは有効であった。

野菜調べでわかったことを伝え合おう

B エ 情報共有の場の設定 (はてな・発見コーナー)

交流することを通して気づきを共有したり自覚化したりするために、児童が調べたことや知っていること、教えてほしいことなどを付箋に書き、掲示するコーナーを作る。

- ・はてな・発見コーナーに付箋を貼り、情報共有する。



- ・初めのうちは少数であったが、次第に書く児童が増えてきた。
- ・友だちの付箋を見て、返事を書いている児童が見られた。
- ・付箋の数が増えてくるにつれて、はてな・発見コーナーに目をとめる児童が増えた。

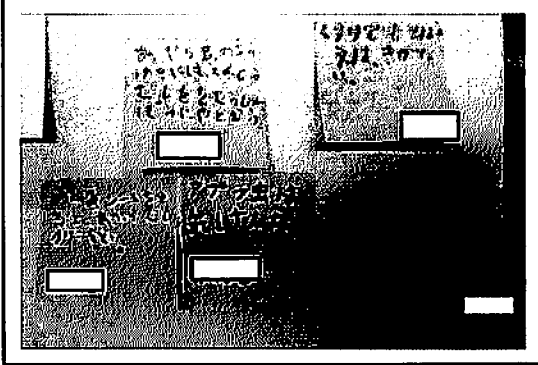
C28 キュウリの葉っぱに白い粉がついていたら「うどんこ病」だよ。

C29 それは水でしっかりと洗い流す
といいんだよ。

C30 なすは色が濃い方が甘いよ。

C31 水をあげて
いるのに、くたっ
としてる。

C32 もっと水や
りを増やしてみ
たら？

		はてな・発見コーナーを設けたことで、自分の知っていることを友だちに教えたり、一緒になって考えたりするなど、気づきが高められる環境ができた。書いたことを発表する場を設けたり、付箋を色分けしてテーマごとに貼ったりするなど、さらに工夫すれば、より多くの児童が興味をもって取り組めたように思う。
野菜への手紙 野菜からの手紙を書こう	・野菜への手紙、野菜からの手紙を書き、自分の野菜への関わりを振り返る。 	・手紙に、野菜への思いをたくさん書けている児童が多く、野菜へ愛着をもって関わっていたことがわかった。 世話をしているときの気持ちや、野菜への思いを振り返ることで、野菜のもつ「生命」や、自分の頑張りに気付かせることができた。

VIII 成果と課題

- 野菜との出会わせ方を工夫し、栽培意欲を持続させることができたことで、多くの気づきを生み出すことができた。
- 野菜日記をかいたことで、野菜の成長に気付くことができた。話し合いの場を設けたことで、違う野菜の成長と比較することができ、気づきの質を高めることができた。
- はてな・発見コーナーを設けたことで、自分の知っていることを友だちに教えたり、一緒になって考えたりするなど、伝え合いの場ができ、気づきの質が高まった。また、付箋に書いた友だちの気づきに返事を書くことで、気づきが言語化され、共有され、より確かなものになった。
- 児童自身が野菜へどんな思いで関わってきたかを振り返る手立てとして野菜への手紙・野菜からの手紙を書いたことによって、自分自身の頑張りに気付くことができた。
- 苗を植える際、地域の種苗店の方を招いて植え方を教えていただいた。さらに意欲を高めるために、野菜調べや育てる過程でも地域の人材の活用を図っていきたい。
- はてな・発見コーナーでより多くの児童が興味をもって取り組めるようにするため、書いたことを発表する場を設けたり、付箋を色分けしてテーマごとに貼ったりして、さらに工夫をしていきたい。

資料編

考察（事前・事後アンケートの比較）

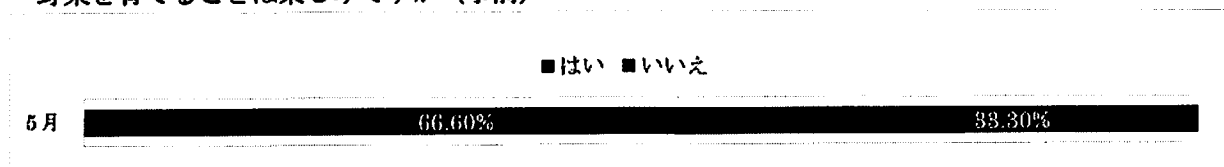
・「野菜を育ててみてどうでしたか」

- ・育てるのが楽しかった。（水やり・お世話など） 12名
- ・実がなって嬉しい。 5名
- ・野菜のお母さんみたいでたのしかった。 1名
- ・育つのがうれしい。 2名
- ・食べてみたらおいしかった。 3名
- ・収穫したトマトが甘かった。 1名
- ・実がたくさんなった。 4名
- ・気根ができてあせった。 1名
- ・最初は心配だったけど、がんばってできた。 1名
- ・まあまあおもしろかった。 1名
- ・つかれた。 1名
- ・水やりが大変だった。 1名

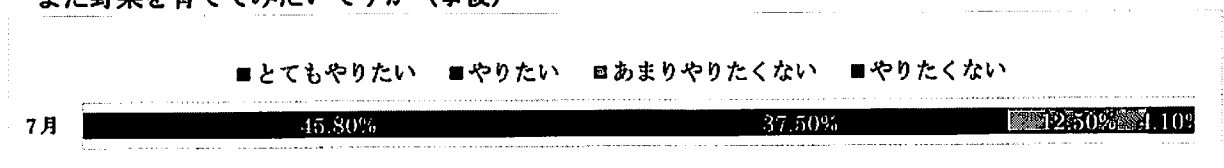
半数以上の児童が、「野菜をそだてて楽しかった」「育つのが嬉しい」という感想を持っており、野菜を育てたことに良いイメージを持っていることがわかった。「野菜のお母さんみたいで楽しかった。」という感想もあり、野菜への愛情をもってお世話をする事ができているように感じた。また、「気根ができてあせった。」という感想から、野菜のことをよく調べ、自分の野菜の変化に気付き、自分のお世話を生かそうとすることができたことが伺えた。「最初は心配だったけど、がんばってできた。」という感想もあり、初めは消極的だったが、育てていくうちに気持ちに変化し、自分の頑張りを振り返ることができた児童もいた。

「つかれた。」「水やりが大変だった。」という消極的な感想もあったが、裏を返せば、それだけ野菜にしっかりと関わってきたということだと捉えることもできる。野菜を育てることを体験したことで気付けた思いが表れている。

・野菜を育てることは楽しみですか（事前）



・また野菜を育ててみたいですか（事後）



理由

- ・もっと調べたい。 1名
- ・もっと育てて収穫して食べたい。 3名
- ・育ててみたらたのしかったから、またやりたい。 3名
- ・水をあげるのが好き。 1名
- ・また大きくなってほしい。 2名

- ・今まで（の学習）で一番楽しかった。1名
 - ・わくわくする。1名
 - ・気根ができないようにしたい（お世話をよりよくしたい）。1名
 - ・違う野菜も育ててみたい。3名
 - ・いろんな野菜を育てて食べたい。1名
 - ・枝豆が黒くなったらまた育てられるから。（種をとってもう一度そだてたい）1名
- △おうちでいっぱい育てているから。1名
 △枝豆は土を入れたのに倒れてしまったからやりたくない。1名
 △水やりが面倒くさい。大変。2名

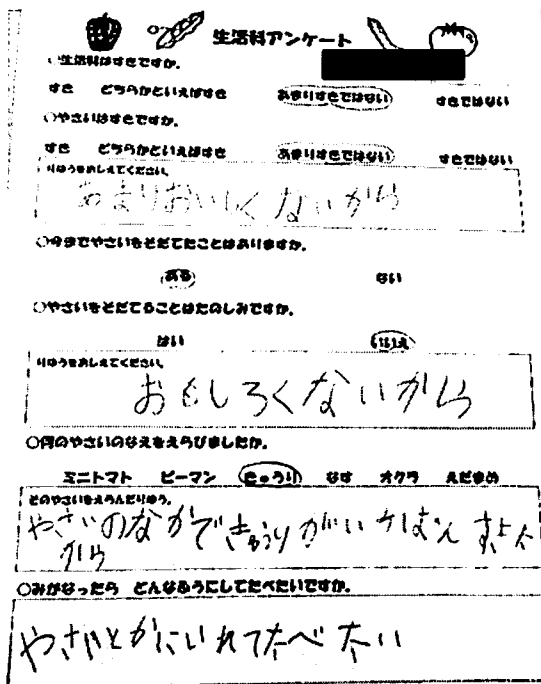
事前のアンケートでは、「育てることが楽しみ」と回答した児童が66.6%であったが、事後のアンケートでは、「また育ててみたいですか」という問いに対して「とてもやりたい」「やりたい」と回答した児童が、80%を超えた。このことから、体験を通して、野菜を育てることの楽しさや、やりがいに気付いている児童が多いことがわかった。

「あまりやりたくない・やりたくない」と回答した児童の中で、「枝豆は土を入れたのに倒れてしまったからやりたくない。」「水やりが面倒くさい。大変。」という理由が挙げられた。失敗したり、辛かったりしたことを体験したことによって、マイナスなイメージを持ってしまう場合もある。しかし、これらの思いも、経験しなければ得られなかった大切な感情である。今後、成功体験につなげられるよう、野菜の育て方について事前に調べ、世話の仕方を助言できるようにしたい。また、水やりなどのお世話をしたことで、野菜も喜んでいることを単元の中で野菜からのメッセージとして渡すなど、教師の働きかけを工夫していきたい。

育てることを楽しむことができた児童も、そうでない児童も、それぞれが色々な思いを経験したことによって、「今度育てるときはもっと実がなるように育てたい」「こんなに野菜を育てるのは大変なのだから、これからは野菜を大切に残さず食べよう」など、次の自分の生活にどう生かすかを考えるきっかけになった。給食で使われている野菜に目を向けさせるなど、今回の学習を振り返られるような声かけをこれからも継続していきたい。

児童の変容（アンケート・ウェビングマップの比較）

〈事前アンケート〉



生活科アンケート

○生活科が好きですか。

好き どちらかといえば好き あまり好きではない 好きではない

○やさいが好きですか。

好き どちらかといえば好き あまり好きではない 好きではない

○やさいを育ててみたいですか。

（ ） 好き 嫌い

○やさいを育てることほめたのしめですか。

（ ） 嫌い 好き

○やさいの育て方をうけひめですか。

エニツマト ビーマン (きょうり) せせ オケラ 長足歩

どのやさいもえんどう豆。

やさいのなができりかいいはえすた

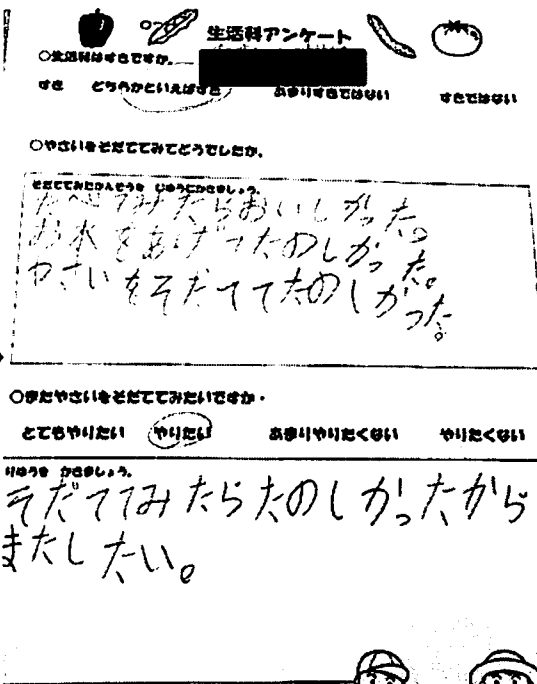
り

○おがきったら どんぶらうにして食べたいですか。

やさいがにいれてたべたい



〈事後アンケート〉



生活科アンケート

○生活科が好きですか。

好き どちらかといえば好き あまり好きではない 好きではない

○やさいが好きですか。

（ ） 好き 嫌い

○やさいを育ててみたいですか。

（ ） 好き 嫌い

○やさいを育てることほめたのしめですか。

（ ） 嫌い 好き

○やさいの育て方をうけひめですか。

エニツマト ビーマン (きょうり) せせ オケラ 長足歩

どのやさいもえんどう豆。

やさいのなができりかいいはえすた

り

○おがきったら どんぶらうにして食べたいですか。

やさいがにいれてたべたい

2



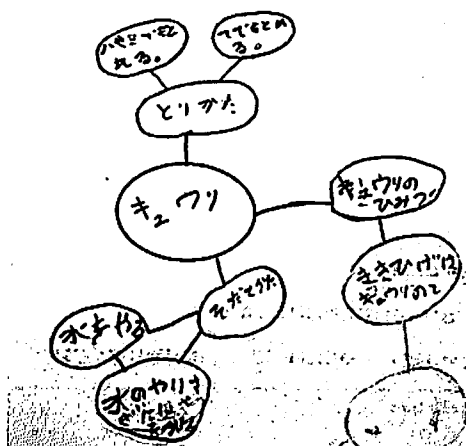
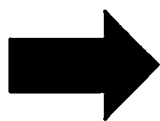
249

ジョッキ

カリカリ

ホリホリ

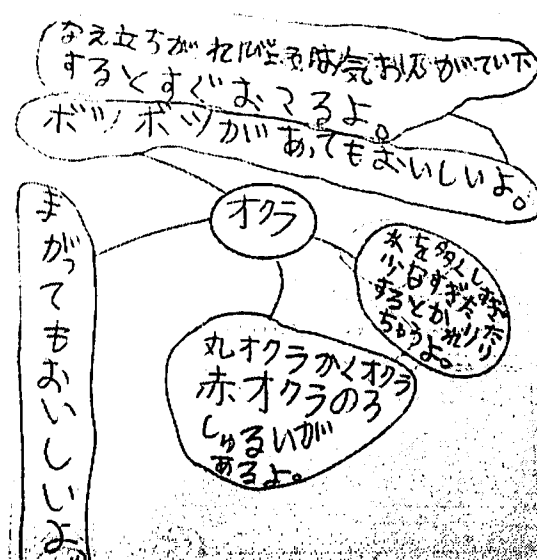
おいし



オクラ

水は一日
ペットボトルの
はんぶんやる

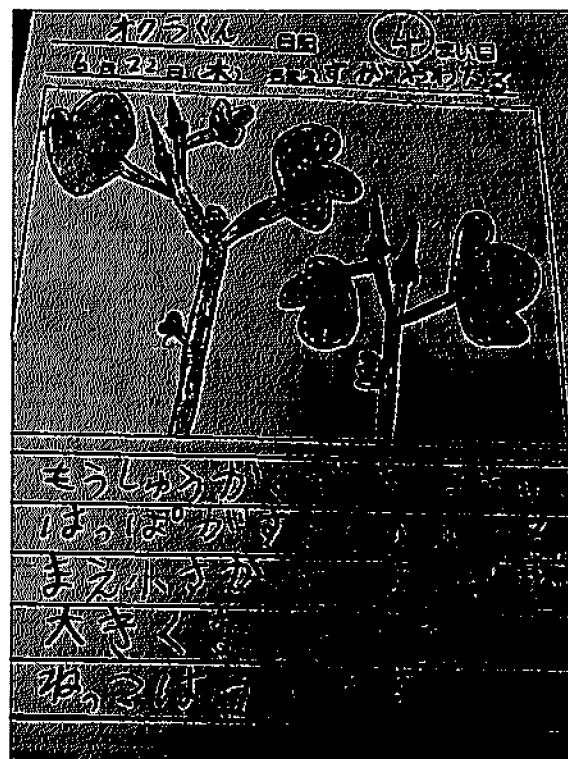
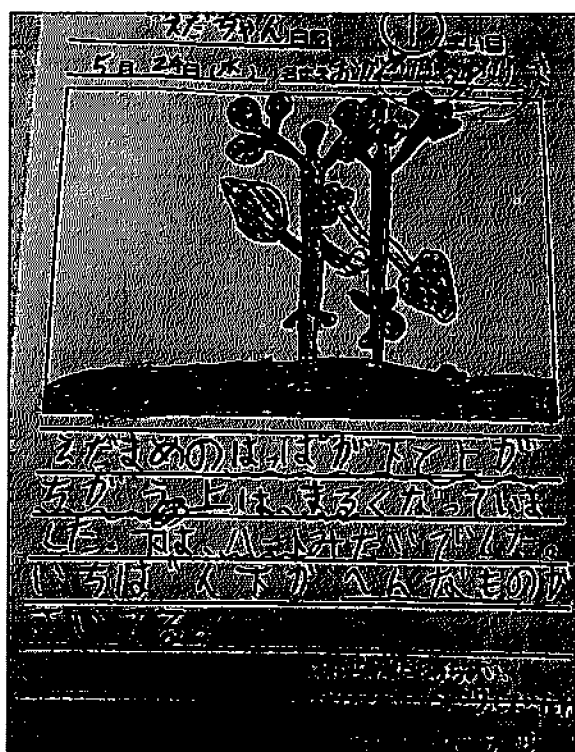
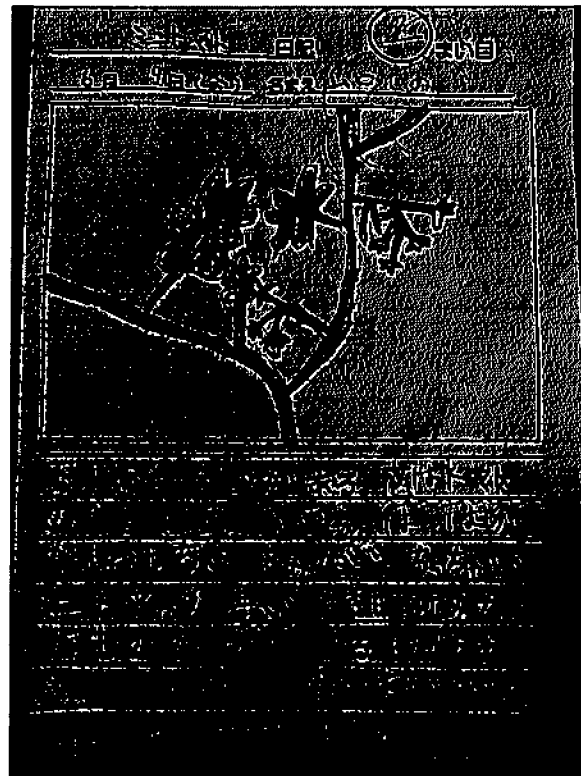
はきみで
きる。



3

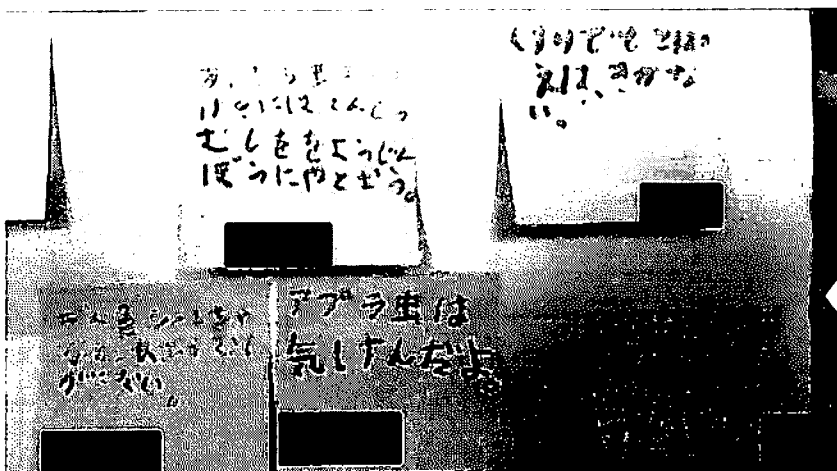
野菜日記（観察カード）

野菜に名前を付けて、観察したことを絵と文でかくこととした。観察するときには、どこに注目するか視点を与えた。教師の朱書き後、教室後方の掲示ホルダーに入れ掲示した。



はてな・発見コーナー

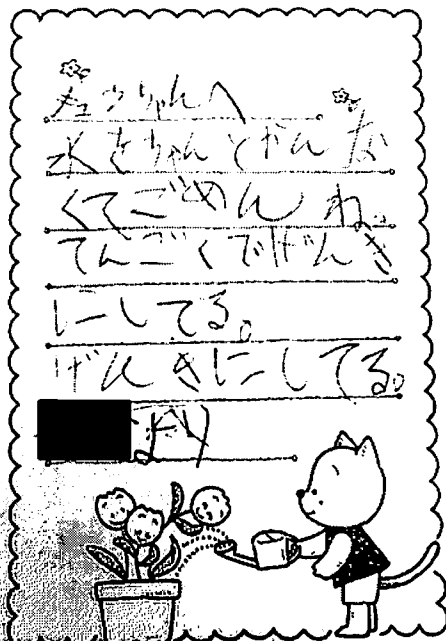
交流することを通して気づきを共有したり自覚化したりするために、児童が調べたことや知っていること、教えてほしいことなどを付箋に書き、掲示するコーナーを作った。はじめのうちは、目をとめる児童が少なかったが、野菜調べをしたり交流活動をしたりする中で次第に知識が増え、付箋を書く児童が多くなった。付箋が増えたことや、学習を進める中で野菜への興味や気づきが高まったことによって、はてな・発見コーナーに目をとめる児童が増えた。



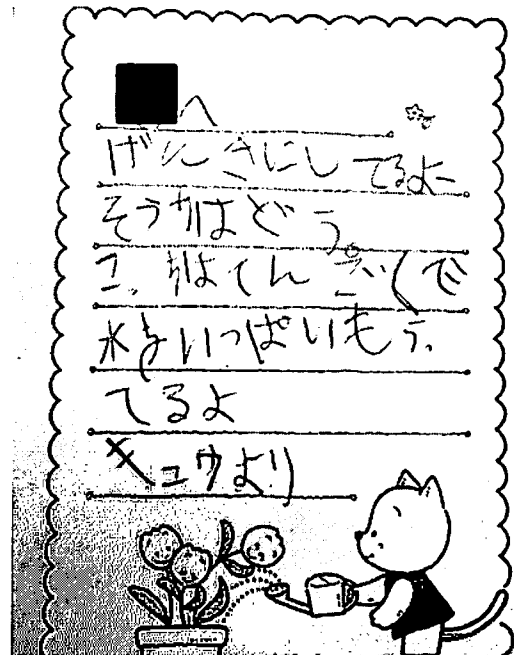
虫について知っていることを付箋に書いている。また、友だちの付箋を見て、関連した内容を近くに貼っている。

野菜へ・野菜からの手紙

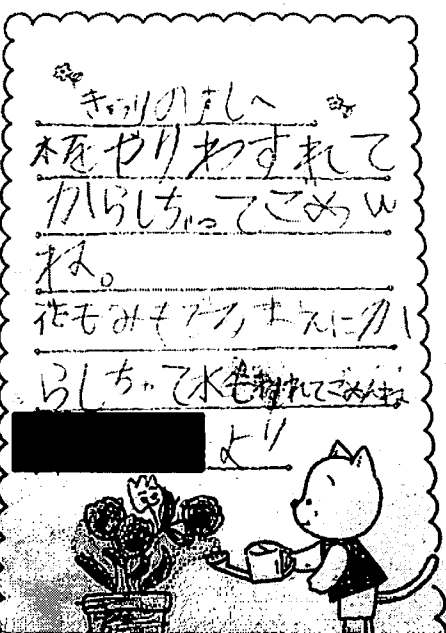
自分の野菜への関わりを振り返るために、野菜への手紙、野菜からの手紙を書いた。



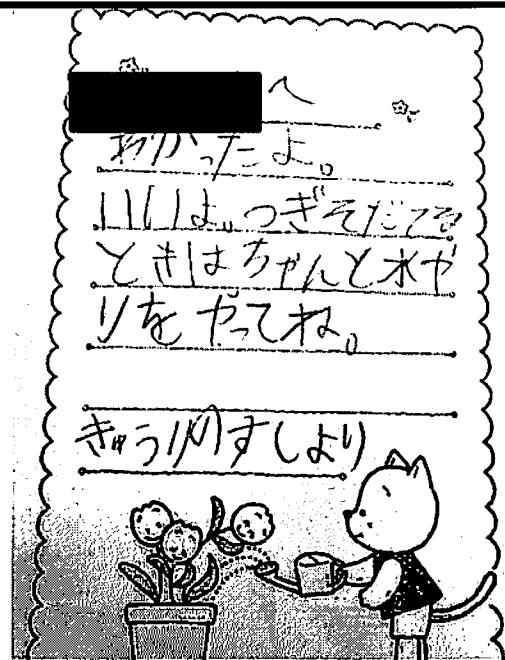
野菜に水をあげるのを忘れてしまい、枯らしてしまつてすまない気持ちがわかる。



きゅうりが天国で幸せにくらしていることを願って書いている。



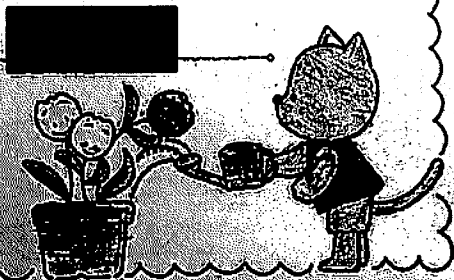
きゅうりが本来ならば育つたであろう過程を考えて、育ててあげられなかったことを謝りたい気持ちが伝わってくる。



自分へ、キュウリの言葉を借りて、今度は水やりを忘れないようにとアドバイスをしているように捉えられる。

☆ ヒーマンくんへ ☆

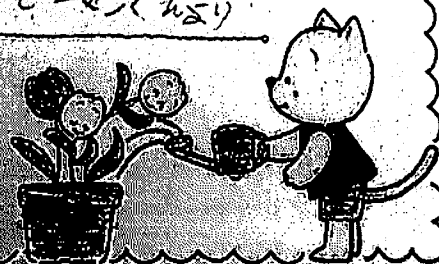
ヒーマンくんへ、今、元気に
そだってる。いつも水やり
するのちゃんめんどくさかも
けど、はじめてヒーマンがで
きたときうれしかったよ。



水やりが大変だったけれど頑張った自分に
気づき、実ができたときの喜びを感じている。

☆ [redacted] へ ☆

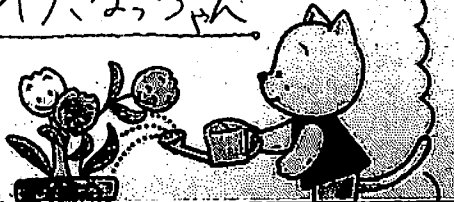
[redacted] へいつも水やりしてく
れてありがとう。そのおかげで
元気にそだってるよ。
ヒーマンい、はいたべてね。
いままでありがとう。
ヒーマンくんより



毎日水やりをしたことで、元気に育ったのだ
という満足感を得られている。

☆ なっちゃんへ ☆

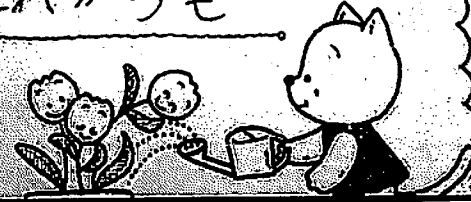
いまでも大人気にそだ
てくれてありがとう。
わたしは「がんばれ」と
おうえんしていました。
いしょうけんめいそだっ
てくれたなっちゃん。



野菜に対して愛情を持ち、一生懸命にお世話
をしてきたことがわかる。

☆ [redacted] へ ☆

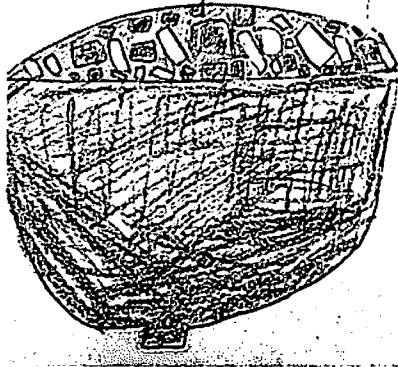
[redacted] が「がんばれ」
と言ったときばくは、が
んばろうとおもいました。
ずっと、ずっといっしょに
いたいなとおもいます
これからも



自分の思いに野菜が応えてくれていると想
像し、野菜の言葉で気持ちを表している。

やさいができたよ！～その後～

夏休み中にも野菜の世話をし、実ができたなら収穫をした。「家で料理して食べたよ。」「うまく育てられなかったけれど、今度育てるときにはこうしたい!」「来年のために種をとったよ。」など、家に持ち帰った後、どんなふうにしたのかを絵と文に表した。



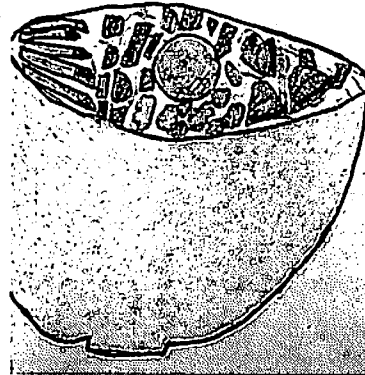
なすはやわらかくて、すぐ口にいれると、とろとろしておいしかったです。もうとも「おいしい」といってました。

←左図

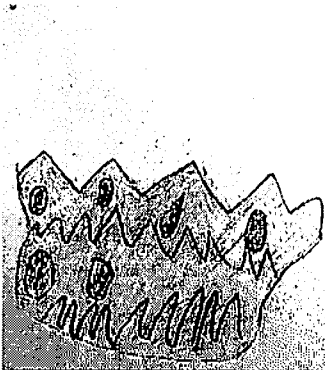
ナスをお味噌汁にいれて食べた M 児。食べたときの食感をくわしく書いていて、食べたときの感動が伝わってくる。家族に振る舞い、妹も「おいしい」と言ってくれたことがうれしかったのだろう。

右図→

キュウリをうどんに入れて食べた MO 児。切り方も印象に残ったのか、絵に丁寧に表している。



きゅうりかきやわらかくてあまからたてきゅうりはきって食べました。



サラダにいろいろいれておいしかったです。また自分でキュウリを作ってサラダに入れて食べたいです。

←左図

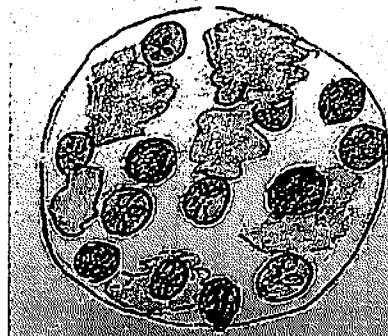
サラダにして食べたという Y 児。「また自分でキュウリを作ってサラダに入れて食べたいです。」という感想が印象的である。

「自分で育てて、収穫して、食べる。」という経験をしたことが、この先の自分の生活の中に生かされていくことが期待される。

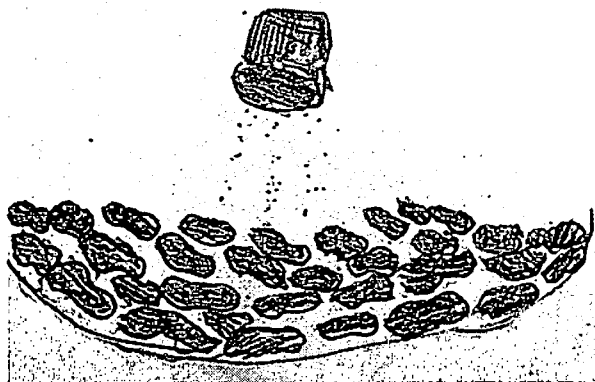
右図→

ミニトマトをサラダにして食べた S 児。絵には描かなかったが、他にも、お母さんにスパゲッティの具にしてもらったと話していた。

シーザーサラダにして食べて、とてもおいしかったことが深く思い出に残ったようである。



シーザーでたべたらすごくおいしかったです。レタスとキュウリを入れました。



ういねん
えだまめ
のをたべる
いしかたの
すまみです
たすい
たのい
まして

↑上図

育てた枝豆を、大豆にして収穫したというMI児。夏休み前に野菜調べをした際、枝豆は大豆になることを知り、今年は食べずに大豆にすることにしたと話している。今年育てた経験を生かし、来年も育てることを楽しみにしていることがわかる。学習が自身の生活に生かされている。



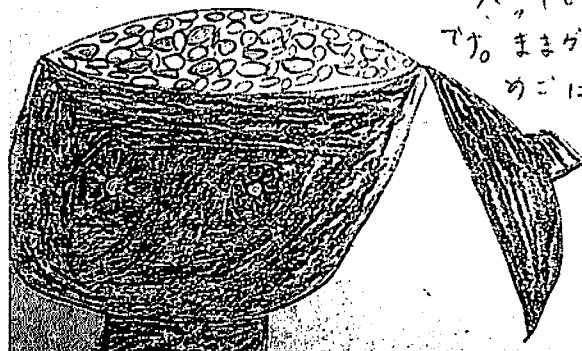
←左図

キュウリを味噌やマヨネーズにつけて食べたというA児。
キュウリの切り方も絵で示している。
家族みんなで食べたことが深く印象に残ったのだろう。

右図→

枝豆ご飯にして食べたというM児。枝豆を栽培することに決めてから、「枝豆ご飯にする！」と話していた。

母親が作ってくれたことが、うれしかったのだろう。おいしく食べられたことがよく伝わってくる。



えだまめごはんをた
たらしくてもおいしか
たです。ままがつくたえ
めごはんは、おいしか
った。